

生ゴミ集め、ニワトリ平飼い



毎朝、家庭から出る生ゴミを集め、それをエサにしてニワトリを平飼いするという実験農場を市民グループがやっている。卵は売って活動資金にしているが、実験しているのは資源循環型社会、生ゴミを資源化し、再利用するというもので、柏市から活動補助金が出ている。



資源回収型の社会を目指す

大室の田中農協の近く、田中中の裏には田んぼを大堀川の浚渫泥で埋めた広大な土地が広がっている。北部開発の公園になるそうで、ここに「にわたりの会」の実験農場（正連寺）がある。

農家から無償で提供してもらった三百坪にニワトリ小屋がたっている。白色レグホン、名古屋コーチン、横斑プリマロックなど入り混じって、百五十羽が平飼いのおかげで気ままに歩き回っている。近所の養鶏場からもらった鶏、卵を生まなくなった廃鶏ばかりというが、生ゴミを食べ、「本物の卵」を日に数十個を生む。一個四十円で大人気である。



いつも先頭にたってニワトリの世話をしている代表の宮田清子さん（イラストレーター）。キビキビ、ハキハキした言動に、こちらまで元気づけられる

実験農場は、一年前から始めた。毎朝、松ヶ崎、高田など七十所帯、十か所の拠点から、ボランティア会員が生ゴミを集めて回る。調理クズが多いので、市販のトウモロコシ、魚粉、カキ殻などを与える。市が生ゴミを粉末化しているが、これを喜んで食べる。食べ残しは堆肥にし、野菜や花を作っている。

資源循環型へ市民意識を高めるとはいえ開拓途上農園である。まだ、水道がない。太陽光発電ができ、ニワトリに扇風機で風を送っている。風力発電も準備中だ。パイオニア精神があふれている。エッグという地域通貨も始まっている。